

研究代表者 所属・職：社会福祉学部・教授  
氏名：木戸 利秋

研究会名：ソーシャルワーク実習教育研究会

研究課題名：効果的なソーシャルワーク実習指導の開発にむけた大学教員と施設実習指導者の課題と役割、および連携のあり方に関する研究

### 研究会発足当初の背景

ソーシャルワーク実習教育の質を高めることによって専門職を目指す学生の自己評価を高め、福祉業界をはじめとする社会のニーズにより積極的に応えていくことを問題意識にもち、3年前に研究会を発足させた。当時、実習の場を提供していただく愛知県下の社会福祉法人と日本福祉大学との間で、フォーラム愛知をスタートさせ、実習教育への社会福祉法人、大学、学生の組織的な関わりができる見込みがあったことも背景にあった。

### 研究会の目的

現場実習を通して効果的なソーシャルワーク実習指導を開発していくことを目的としている。そのために、3つの研究課題を設定して実習指導者、学生、教員の視点から取り組んでいる。①施設実習におけるケアワークを取り入れたソーシャルワーク実習デザインの方法、②ソーシャルワーカーを育てる実習評価の視点と方法、③効果的な実習スーパービジョンのシステムと方法である。

### 研究会の活動実績

2018年度は4回の研究会を行った。主に過去2年間のアンケート調査などから明らかとなったソーシャルワーク実習教育の成果や課題を、社会福祉施設の実習指導者ととも8月のフォーラム愛知の研修会において共有した。また改正作業が進む社会福祉士養成カリキュラムの見直しに関わって今後研究会をどう展開していくのか、研究会で議論した。

### 研究成果

研究会が過去2年間取り組んできた①実習デザイン、②実習評価、③実習スーパービジョンの3

つの課題から、議論のまとめと課題を明らかにしたことが研究成果である。

ソーシャルワーク実習教育研究会、フォーラム愛知 2018 年度第 1 回研修会報告書『福祉現場と大学の協働による福祉人財養成－2 年間の実習教育の議論のまとめと今後の課題－』日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター、2019 年 3 月

江原隆宜 「ソーシャルワークを学ぶ現場実習プログラムの考え方－現場実習としてケアワークに関わる意味の考察を通して－」『日本福祉大学社会福祉実習教育研究センター2018年度年報』第16号、2019年5月掲載予定

### 今後の展望

新しい社会福祉士養成カリキュラムのもとでのソーシャルワーク実習デザインをどのように描いていくのか、これまでの研究成果をもとに実習評価の枠組みや実習スーパービジョンの考え方をさらに発展させていくことが今後の課題である。